

事業所の概要表

(令和2年 8月 19日現在)

事業所名	グループホームふくずみ					
法人名	社会福祉法人安寿会					
所在地	松山市福角町甲616-1					
電話番号	089-911-8700					
FAX番号	089-979-6664					
HPアドレス	http://					
開設年月日	平成 16 年 12 月 1 日					
建物構造	<input checked="" type="checkbox"/> 木造 <input type="checkbox"/> 鉄骨 <input type="checkbox"/> 鉄筋 <input checked="" type="checkbox"/> 平屋 (1) 階建て (1) 階部分					
併設事業所の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (通所介護ふくずみ・地域密着型小規模多機能型居宅介護)					
ユニット数	1 ユニット		利用定員数 9 人			
利用者人数	9 名 (男性 3 人 女性 6 人)					
要介護度	要支援2	1 名	要介護1	1 名	要介護2	3 名
	要介護3	1 名	要介護4	2 名	要介護5	1 名
職員の勤続年数	1年未満	2 人	1~3年未満	2 人	3~5年未満	0 人
	5~10年未満	3 人	10年以上	1 人		
介護職の取得資格等	介護支援専門員 人		介護福祉士 3 人			
	その他 (ヘルパー2級・準看護師)			
看護職員の配置	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 直接雇用 <input type="checkbox"/> 医療機関又は訪問看護ステーションとの契約)					
協力医療機関名	福角病院・光洋台歯科クリニック					
看取りの体制 (開設時から)	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (看取り人数: 1 人)					

利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	47740 (31日) 円	
敷金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円	
保証金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円 償却の有無 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有	
食材料費	1日当たり	1,606 円 (朝食: 440 円 昼食: 583 円)
	おやつ:	円 (夕食: 583 円)
食事の提供方法	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所で調理 <input type="checkbox"/> 他施設等で調理 <input type="checkbox"/> 外注(配食等) <input type="checkbox"/> その他 ()	
その他の費用	水道光熱費	319 円
	日用品	114 円
	理容代	実費 円
	おむつ代	実費 円

家族会の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (開催回数: 3 回) ※過去1年間	
広報紙等の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (発行回数: 10 回) ※過去1年間	
過去1年間の運営推進会議の状況	開催回数	6 回 ※過去1年間
	参加メンバー ※□にチェック	<input checked="" type="checkbox"/> 市町担当者 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 <input type="checkbox"/> 評価機関関係者 <input checked="" type="checkbox"/> 民生委員 <input type="checkbox"/> 自治会・町内会関係者 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣の住民 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者 <input type="checkbox"/> 法人外他事業所職員 <input checked="" type="checkbox"/> 家族等 <input type="checkbox"/> その他 ()

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	令和2年9月7日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	8	(依頼数)	9
地域アンケート	(回答数)	3		

※事業所記入

事業所番号	3890101367
事業所名	グループホームふくずみ
(ユニット名)	
記入者(管理者)	
氏名	高橋幸子
自己評価作成日	令和2年8月19日

<p>【事業所理念】※事業所記入 「笑顔のある生活」</p> <p>行動指針 ・お一人お一人を尊敬し必要に正しく応えられるケアに努めます ・穏やかにアウトホームな関係作りに努めます ・清潔で明るく快適な居場所作りに努めます ・地域に根ざし地域に解け込むグループホーム作りに努めます</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入</p> <p>①家族・利用者に寄り添った看取りの実施。・研修への参加・連携体制・職員の不安軽減ケアに取り組む。 ②地域包括や他事業所との連携を図る。・地域の方の待機者へ細目な連絡、必要時訪問実施。地域の方との交流を図る。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>年2回、利用者に「満足度調査」を行い、職員の言葉遣いや、外出、レクリエーション、食事、入浴、などについて聞いている。食事に関する意見が多いようだ。</p> <p>年2回、職員個々に、「学習目標及び自己評価表」で身だしなみや言葉遣いなどについてチェックして自分自身を振り返る機会を持っている。</p> <p>昨年9～10月に、初めて看取り支援を行った。状態変化時、主治医、家族、管理者、看護師で話し合い方針を共有した。</p>
---	---	--

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価
I. その人らしい暮らしを支える								
(1) ケアマネジメント								
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	<p>a 利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。</p> <p>b 把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。</p> <p>c 職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。</p> <p>d 本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。</p> <p>e 職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。</p>	<p>○ 夢プラン時等何がしたいか、どこに行ったり何が食べたいか等をお聞きし、プランを作成し実行できるように努めている。実行するまでには、家族の協力も必要であるため連携を図っているが今年に入りコロナの為出来ていない。</p> <p>○ 日頃の言動や行動に目を向けている。意思疎通が難しい方に関しては、家族さんの情報やアイデアを頂き本人に寄り添い普段から笑顔の時はどんな時かなど思いをくみ取るように努めている。</p> <p>△ 家族の面会時等にお話を聴いたりしているが、新しく入所された方等は、コロナの事もあり、話を聴けていない所がある。知り得た情報は職員と共有に努めている。</p> <p>△ 日々の記録等に発した言葉などを記載している。カンファレンス等で共有出来るように努め情報共有シートに残すようにしている。</p> <p>△ 理念に立ち返り利用者さん第一に考え寄り添い思いを汲み取れるように努めているが、日々の業務に流されて来ないこともある。</p>	◎	◎			<p>入居時に本人や家族から思いや暮らし方の希望を聞き、センター方式をアレンジした入居者情報共有シートに記入している。自分の思いを伝えにくい利用者には、表情などから意向を読みとっている。</p> <p>毎日してほしいこと、眠れない時にしてほしいことなど、希望を具体的に聞き取り、本人の言葉や表情・仕事も記録している。追加情報は赤字で記入している。</p>
2	これまでの暮らしや現状の把握	<p>a 利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。</p> <p>b 利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなど等)等の現状の把握に努めている。</p> <p>c 本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。</p> <p>d 不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)</p> <p>e 利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。</p>	<p>○ 入所時に情報を頂いており、どのように今まで生活してきたかをお聞きしている。馴染みの物等を持ってきていただき、出来るだけ家で生活に似た様に過ごしていただけるよう努めているが情報少ない方もおられる。</p> <p>○ 日々状況状態が変わってくるため把握しきれない事もある。伝達遅や申し送り等で共有に努めている。月毎のアセスメントシートに記入。</p> <p>○ 日々の状態の変化を把握している。不安に感じていることに寄り添えるように支援に努めている。</p> <p>△ 本人が不安になる様態を考え、安心出来るよう声掛け・傾聴・寄り添うなど努めている。心身の状態など職員と共有し把握に努めている。</p> <p>○ 個々に合わせた生活を理解し、支援につなげるように努めている。</p>		◎		<p>入居時、家族にセンター方式の「私の生活史シート」や「私の暮らし方シート」を渡し情報を記入してもらっている。</p> <p>その後、知り得た情報は、利用者個々の担当職員が追記している。</p>	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	<p>a 把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。</p> <p>b 本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。</p> <p>c 検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。</p>	<p>△ 情報を得られる方と得られない方がおられ、来所時には状態報告し情報を得るよう心がけている。日々の言葉・行動からくみ取り、ミーティングで検討するようにしている。</p> <p>○ この方にとって必要な支援は何か日々意識し、家族来所時会話の中でアイデアをもらっている。</p> <p>○ アセスメントを利用し、課題を明らかにしている。課題の変更が必要な時にはケアプランの変更を行っている。</p>		◎		<p>月1回のGH会議時に、職員で情報を持ち寄り話し合っている。</p> <p>サービス担当者会議に利用者や家族が参加するケースがある。</p>	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	<p>a 本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。</p> <p>b 本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。</p> <p>c 重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。</p> <p>d 本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。</p>	<p>○ 介護計画とは別に、夢プランも計画している利用者さん、家族さんと共に作成し家族も交えて実行できるよう努めている。コロナの為外出など出来ていないが、生活の中で反映出来るように努めている。</p> <p>○ 利用者・家族さんの要望に応えられるように柔軟に対応出来るよう努めている。</p> <p>○ 家族さんとの繋がりが切れないように、状況報告や行事の参加等呼びかけている。自室での生活にならないよう心がけている。</p> <p>○ 介護計画とは別に夢プランも計画している。利用者さん、家族さんと共に作成し家族も交えて実行できるよう努めているが、コロナの為中止した事もある。</p>	◎	◎		<p>サービス担当者会議の内容や本人や家族から事前に聞いた意見をもとに、GH会議で話し合い計画を作成している。</p> <p>終末期の過ごし方について、医師と相談して、家族と年末年始を過ごせるよう計画を立てた事例がある。</p>	
5	介護計画に基づいた日々の支援	<p>a 利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。</p> <p>b 介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。</p> <p>c 利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。</p> <p>d 利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。</p>	<p>○ モニタリング・ミーティングで話し合ったことは記録し、理解を図っている。表にまとめ目を通すようにしている。</p> <p>○ ケアプランチェック表に記入し状況確認を行っている。15日・月末・3ヶ月評価を記入し共有している。</p> <p>○ 日々の具体的な内容が分かるように話された言葉や行動など出来るだけ具体的に経過に残すように努めている。</p> <p>○ 経過記録や情報共有シートに記入するよう努めている。</p>		◎	△	<p>新たな介護計画を作成した場合は、内容を確認することになっている。</p> <p>生活記録のファイルに、利用者全員の介護計画を綴って把握、共有している。</p> <p>毎日、ケアプランチェック表に、○△×の記号でケアが実践できたかを記入している。15日・月末には、担当者が青字で評価を記入し、3ヶ月、6ヶ月ごとにカンファレンスを行って評価して見直しにつなげている。</p> <p>介護記録に言葉やエピソードを記録しているが、介護計画にそった内容という点からは、記録量が少ない。</p> <p>介護記録や入居者情報共有シートに記録している。</p>	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	期間は6か月で組んではいるが、特変があった場合・入院された場合など見直しをしている。			◎	計画作成担当者が一覧表にして管理し、見直しの時期を職員に知らせている。	
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	全員ではないが面会時や状態変化等があれば報告を行っている。月2回のモニタリングと毎日ケアプランチェック表を記入し現状確認を行っている。			◎	毎日のケアプランチェック表と月2回のモニタリング表をもとに、月1回のGH会議時に現状確認を行っている。	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	期間は3～6か月で組んではいるが、特変があった場合などは見直しを行うようにしている。			○	退院後に状態変化があった利用者について、家族と医師、職員で話し合い、介護計画を見直している事例がある。	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行うための課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	月1回のミーティング実施(参加できていない職員もいる)。緊急な場合などカンファレンスを行うようにしている。			○	月1回、GH会議を行い、GH会議録を作成している。事故やヒヤリハットがあれば、その日の勤務職員で話し合い、カンファレンス検討会議録に記入している。	
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	出来るだけ様々な意見が出され色々な視点から見た事・感じた事を話し合えるように工夫している。					
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	△	夜間専門員の方が参加することが難しい状態である。参加出来ない職員には意見などを記入してもらおう事も検討している。					
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	会議録・私の伝達簿を作成し確認してもらっている。			○	職員全員がGH会議録を確認して、押印やサインするしくみをつくっている。印やサインが揃っていない場合は、管理者が確認している。	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	伝達簿や会議録を作成し確認してもらっている。日々の申し送りなどでも伝達できるように工夫している。			○	たとえば、家族からの伝言は、私の伝達事項シートに記入しており、確認した職員は押印やサインするしくみをつくっている。	
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	伝達簿や会議録を作成し確認してもらっている。日々の申し送りなどでも伝達できるように工夫している。	◎				
(2) 日々の支援										
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	業務に追われなかなか実行できていないのが現状であるが叶える努力をしている。					
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	出来るだけ選択し頂けるよう声掛けを行っている。意思疎通の難しい方においては、表情など思いを汲み取れるように努めている。			○	おやつをバイキング形式にすることがある。また、チラシを見て、好きなハンバーガーを選び、職員が買いに行き、昼食に食べることもある。	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	寄り添い会話する事で話せる事もあるため、個々にしっかりと向き合い納得し暮らせるよう努力している。					
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	入浴時間等においては時間を設けさせていただいている。それ以外においては個々のペースで支援できるように努めている。拒否がある場合は無理強いせず日の変更をしている。					
		e	利用者の生き生きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うれし等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	理念に立ち返り方向づけを行っている。業務に追われるとできなかつたりすることもある。常に利用者さんの笑顔の為に努めていきたい。(1人1人が好まれる声掛け・会話を共有する)			○	庭で採れたトマトの調理の仕方を利用者に関心ながら「トマトのマリネ」を作ったことがある。	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるように支援している。	○	意思疎通の難しい方もおられる為、表情や行動で汲み取れるように努めている。日々の状態を知る事に努めている					
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	意識しているが出来ていない事もある為、職員同士が注意しあえるように努めている。法人全体の勉強会で学んでいる。(接遇について)年2回自己評価をしている。	○	○	○	権利擁護や接遇についての法人研修や内部研修で学んでいる。年2回、職員個々に、「学習目標及び自己評価表」で身だしなみや言葉遣いなどについてチェックして自分自身を振り返る機会を持っている。	
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声をかけないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	人生の先輩であり、尊敬の気持ちを持ってケアに携わっているが、言葉遣いにおいては出来ない時もある。			○	評価困難 COVID-19感染予防のため、ユニット内への立ち入り制限があり、確認することができなかった。	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	トイレ・入浴には十分配慮しながら行っている。汚染時など準備不足で待たせてしまう事もあるプライバシーに配慮し声掛け・介助に努めている。					
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室はプライバシーの場所である事は把握している。ノック・声掛けをし入るよう心がけている。				○	管理者は、居間で過ごす利用者に見せてください。いいですか」と許可をとってから入室していた。
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	プライバシー保護の勉強を毎年定期的に行っている。					
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	洗濯干し・たみ・ゴミ箱作りなど利用者にも手伝ってもらっている。感謝・労いの言葉をかけるよう心がけている。					
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	普段から職員がコミュニケーションがもてるように支援している。利用者同士の会話等も増えてきている。					
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)	○	1人にならないように職員が随時声掛けを行っている。食事の時には配慮し配慮を随機店裏に対応している。1人が好きで干渉されたくない方は状況を見て、職員と一緒に会話するように支援している。			○	座席は、利用者の関係性を考慮して職員が決めている。他利用者の口調が気になるような利用者には、「あれは方言なんよ」と説明して対応している。	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルがある状況を把握した場合、どのような事があったのか記録し職員全員が共有しトラブルを未然に防ぐように配慮している					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場所との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	馴染みの関係を出来るだけ絶やさないように支援している。会話の中の場所や人物など知ったことは家族に確認し支援の参考にしている。				実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	馴染みの場所などは、お聞きし把握できているが地域との関係など把握できていない利用者さんもおられる。家族が知らないと本人も記憶が不十分で把握が難しい。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしていた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	家族や親せきの方などは来られているが、全員ではない。デイを利用されていた利用者さんは行事の時には参加してもらっている。1人女学生の時から友達が遠いに来てくれるご利用者さんもおられる。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	来られた際は、リビングや自室に案内しお茶などでゆっくりお話しできるよう工夫している。面会時間の制限等も無いため自由に面会できるようにしている。今年はコロナの色々な対応で支援している。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員個々の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	年間行事を作成し配布し支援に取り組んだ。今年になりコロナの為中止する行事もあるが、利用者さんの心身の状態も配慮しながら取り組む努力をしている。	△	○	△	計画を立てて、季節の花見物(桜、紫陽花、コスモス)などに出かけられるよう支援している。散歩なども支援するが機会が少ない。 車いすの利用者も、周辺の散歩や中庭に出たりして過ごせるよう支援しているが機会が少ない。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	協力を得るところまでに至っていない。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ちよく過ごせるよう取り組んでいる。	○	家族さんと相談し、喫茶店でランチをしたり毎年行っていたお祭りに行かれたり、自宅に帰られた方もおられる。今年にはコロナの事もあり外出は中止している。車椅子の利用者も中庭にて花を見るなど機会をつくるように努めている。			△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	夢プランの計画に利用者・家族さんの計画を盛り込み実施出来るように努めている。今年はコロナの為難しくなっている。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。		認知症の理解を深めていける様に勉強会を行い、マニュアルも分かりやすいところ置き勉強できるようにしている。1人1人にあったケアに努めている。				台拭きや洗濯物たたみをする事が役割の利用者がいる。テレビが好きな利用者には、新聞とリモコンを手元に置き、見たい番組を見られるようにしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	認知症の勉強会などは行っている。日々の状態の変化を見逃さないように情報を共有している。維持・向上が図れるように、施設内外の研修にも積極的に参加していく必要がある。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	出来る事においては、見守りを行っている。状態・情緒の変化をしっかり把握し必要時声掛け介助を行っている。(好きなテレビを選びチャンネルをかえる・入浴時の洗身など)		○	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	全員の役割においては見いだせていない所も多いが無理の無いように、楽しみや役割、出番になるかの把握に努めている。(洗濯たたみ・ゴミ箱作り・花の手入れのアドバイスなど)				併設デイサービスに、保育園児の訪問がある時には交流している。また、ボランティア訪問時には、参加するなどして楽しみごとをつくっている。毎日、午後15時以降の時間を設け、体を動かす機会をつくっている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごすように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	認知症の状態を把握し、ドライブや外出など楽しんでいただいている。役割においてはその時の状況に応じ洗濯物や台拭き等手伝っていただき、必ず感謝の声をかけている。	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	秋祭りには施設へ子供みこしが来てくれ、おれを運んだりもされた。賞出しにも初めて参加する事が出来た。毎年恒例の地域交流会はコロナの為中止になった。				
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	その人の好みや似合うものを選び、身だしなみや、おしゃれに無関心にならないように、手洗い時、起床時や入浴後など鏡も利用して、身だしなみや、おしゃれを楽しんでいただいている。カットや、爪きり等にも配慮している。				それぞれに似合う服を着て過ごしている。 自分で髪を結う利用者があり、うまくできない時のみ職員がサポートしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	入所時に馴染みの衣類などを家族さんに持ってきていただいている。好みを理解し職員が共有している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	一緒に寄り添いその時にあったものを選び支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出するときは普段より少し雰囲気を変える事もある。家族と相談し服装を決める事もある。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくなりカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	食事の後などは口腔ケアの際にもう一度確認し、支援している。	◎	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるよう努めている。	△	男性・女性も好みと長さを聴き職員が切っている事が多い。男性1名は家族さんが連れて行かれていたが近年は無くなっている。女性1名は訪問美容室に来てもらい希望の髪形を言われている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	重度であっても利用者さんの望む、本人らしさに注目し支援を行っている。朝・夕の衣類更衣や整容についても支援している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事の楽しみが持てるように努めている。生活の中で重要性を理解しており、1人1人形態にも気を配っている。目で見て楽しみ、鼻で食材の匂いを感じて欲しいと思っている。				献立は、併設のデイサービス、小規模多機能および事業所が、1ヶ月毎に交替して作成している。食材は業者の配達を利用し、調理や後片付けは主に職員が行っている。利用者は、台拭きをしたり、食べ終わった食器を重ねたりするようなこともあるが、食事一連に関わる機会は少ない。 魚が苦手な人には、肉料理を用意するなどして対応している。家族などから野菜の差し入れがある。また、旬の果物などを採り入れている。 COVID-19感染予防のため、ユニット内への立ち入り制限があり、確認することができなかった。 COVID-19感染予防のため、ユニット内への立ち入り制限があり、確認することができなかった。 COVID-19感染予防のため、ユニット内への立ち入り制限があり、確認することができなかった。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	現在はメニューが決まっているが、要望があれば臨機応変に行っている。食材などは業者が持ってきてくれに置くと、食材について余話したり野菜を見て、話されたりしている。現在はコロナの為に難しくなっている。台拭き・下ごしらえ等手伝って頂いている。				
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	できる事できないことを把握し、出来る事については、声掛け・見守りを行い自信に繋がれるように努めている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入所時にアレルギーの確認を必ず行い把握に努めている。個々の好きなもの苦手なものを把握している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味を取り入れている。	○	季節に応じて献立を作成している。季節の野菜や畑で取れた物等を取り入れている。器と味も考えようとしている。(家族からの差し入れの野菜で料理が追加になる事もある)				
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法とつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろいろやりの工夫等)	○	個々によって食事形態を工夫している。食材・献立によってミキサー・きざみ・カットの選択を行っている。便秘や下痢の方には食事・水分を検討し提供している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等を使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	入所時に使い慣れた物を持ってきていただいて使用している。(茶碗・箸・湯呑) 利用者の状態をみて、事業所の軽い柄付きコップやフォーク・スプーンを用意し対応している。				
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	職員も同じテーブルで見守り食事をやっているが今年に入りコロナの為中止している。食事中は誤嚥にならないようにさりげなく見守り・介助している。				
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	食事の出来る匂いや雰囲気を楽しんで頂けることが出来るように支援している。	◎			
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	食事量・水分量を測り、チェック表に記入し把握できるように努めている。食事でとれなかった場合おやつなどで補食を行っている。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	食事量・水分量を記入し把握できるように努めている。食事でとれなかった場合おやつなどで補食を行っている。(エンチュアなど)水分は好きな飲み物を聞き提供している。(アップルジュースなど)				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	現在は法人で統一したメニューにしている。偏りが無いように考慮し献立作りを行っている。法人で年に1回アンケートを実施されており参考にしている。				
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	食中毒や感染症などの勉強会を行っている。又衛生的に調理器具、食材の使用と管理に努めている。						
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	毎食後見守り介助のもと口腔ケアを行っている。口腔ケアの重要性は理解している。				入居時、訪問歯科医に口腔内の状況を診てもらっており、受診結果をファイルして、義歯の状態などについて把握している。その後は、口腔ケア時に目視して、異常があれば受診につなげている。 毎食後、支援している。 COVID-19感染予防のため、ユニット内への立ち入り制限があり、確認することができなかった。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	1人1人の口腔内の把握の表を作成している。歯科受診時の内容等の個人用の書類を作成している。				
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	x	利用者の訪問歯科受診時指導された事をケアしている。研修など積極的に参加していきたい。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	食後の口腔ケアや夜間帯のポリドント洗浄を行っている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れがよい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	出来るところはして頂き、出来ないところにおいては声掛け介助しながら行っている。				
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	新しく入所された方は家族と相談し歯科受診に結びつけるようにしている。今年はコロナの為中止している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	排泄ケアについては勉強会を行っている。1人1人紙オムツ・パッドの使用方法など意見交換し改善に努めるようにしている。				職員の気付きなどをとくにGH会議やサービス担当者会議で話し合い見直しを行っている。 退院時、紙パンツを使用していた利用者について、紙パンツの汚れが少ないことから、トイレでの排泄を支援して、布パンツとパッド使用に変更した事例がある。変更内容があれば、私の伝達事項シートに記入して共有している。	
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	出来るだけ食事・水分などで排泄がスムーズにできるように努めている。便秘による食欲低下・不快感・行動の変化につながる事も理解している。					
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	チェック表にて個々のパターンを把握しトイレ誘導・パッド交換を行っている。					
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	24時間の排泄チェック表をつけパターンを知りトイレ誘導を行っている。出来るだけトイレで用が足せるように努めている。毎月確認している。	○				
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	食事・水分量や運動など生活環境に配慮している。食事などでは繊維の多い物や水分量や牛乳等積極的に取り入れている。意思疎通の難しい方など声かけ・介助を工夫しトイレでの排泄に取り組んでいる。					
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄チェックを行い、トイレ誘導を行っている。出来るだけトイレで行えるよう努めている。					
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういつ時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	個々に使用については職員では話している。その後家族と話し合い本人に合ったものを使用するようにしている。(日中・夜間の違い、皮膚疾患など配慮する。)					
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	職員側に合わせてではなく利用者さんの状態で使用している。紙パンツを使用してもトイレ誘導を行い出来るだけトイレで行えるように支援している。					
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	出来るだけ食事・水分補給・腹部マッサージなどで働きかけを行っているが、下剤等を使用している利用者もおられる。					
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	温度や時間・順番などは確認しながら行っているが、時間は午前中になる事が多い。	◎		△	週2回、午前中と時間を決めて支援している。 利用者から「午後から入浴したい」という希望があるようだが、現在は、支援するまでに至っていない。 湯温は、その都度確認している。また、「一番風呂が良い」「シャワー浴が良い」などの希望に応じて支援している。	
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	個室になっており、ゆっくり入っていただけるように支援している。職員は見守り、介助している。					
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	出来る事は見守り、出来ない事は介助して安全に安心して頂けるようにしている。(お湯の温度は好みで調整している。)					
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強ひせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	入浴が嫌いな利用者もおられる為、声掛けする前に心地良く過ごしてもらうなど配慮して行っている。日の変更も行っている。					
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	その日のバイタル等を考慮し行っている。入浴後も本人の状態を確認している。					
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	睡眠の状態など経過記録に記入している。申し送りなどで全員が把握できるように共有している。				薬剤を服用している利用者は、医師に相談しながら支援している。 眠れないと言われる利用者には、ホットミルクや生姜湯を用意したり、ゆっくり話をする時間を持つたりして、自然に入眠できるよう支援している。	
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日頃の状態を把握し、生活のリズムを作るように努めている。					
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	生活の状態を把握し、見直している。必要時Drと相談し服薬も行っている。					
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	自室でゆっくり出来るように出来るだけ家で生活されていた状態を作り、ゆっくり安心して休んで頂けるように努めている。					
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	携帯を持参されている方がおられる。使用方法など忘れてる方には職員が手紙で電話されている。他の方も希望された場合職員が手紙で連絡するようにしている。状態報告時家族と会話される事もある。				△	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	要望があれば支援している。家族も仕事されており休み時間に連絡してくれる方もおられる。字が書きにくい・視力の低下など難しい事もある。					
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	希望に応じて対応している。家族との関係性がより良くなるように努めていきたい。					
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	手紙等が届くと本人にお渡しし、読まれた後は自室に飾るか家族と相談している。					
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	要望があれば対応している。家族さんから連絡を頂いた際は、電話を代わったりするなどしている。家族から手紙が届く方もおられる。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	お金の所持や使う事の大切さは理解しているが、個人で持っている方もおられず機会も減ってきている。				/		
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につけている。	△	要望があれば一緒に出かけるようにしているが、今年はコロナの為中止している。						
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	外出で買い物を行った際には、支援を行っているが、理解や協力等の働きかけは行っていない。						
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	外出で買い物を行った際には、支援を行っているが、理解や協力等の働きかけは行っていない。						
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	利用者家族さんと相談しながら行っている。						
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	×	現在は預かりなし。						
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	利用者・家族さんの要望に応えられるように柔軟に対応出来るよう努めている。	◎		○	家族の見舞いに行く際に付き添ったことがある。外国から帰国した家族とゆっくり過ごせるように、建物内の地域交流室を貸し出したような事例がある。		
(3) 生活環境づくり											
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	家での生活のように玄関前には花を飾ったり、新聞入れなども置いてあります。	◎	○	○	玄関周りは、掃除が行き届いていた。スロープを設置している。調査訪問当日は、台風の影響で玄関周りのプランターや鉢植えは室内に入れていた。		
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を持っており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住みやすさの心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものか置いていない移風景観な共用空間等、家庭的な雰囲気をそくような設えになっていないか等。)	○	玄関やリビングなどは季節感を感じていただけるような花などを飾っている。日動帯・夜動帯で掃除を分担、汚れたらその都度こまめに掃除し、清潔で快適に生活していただけるよう努めている。冷暖房、照明、消臭、換気等、工夫調整している。			◎	○	評価困難 COVID-19感染予防のため、ユニット内への立ち入り制限があり、確認することができなかった。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	掃除の分担を行い気持ちよく生活して頂ける様に配慮している。				○	評価困難 COVID-19感染予防のため、ユニット内への立ち入り制限があり、確認することができなかった。	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	食事の準備の音や匂いなども刺激になると思うので、介護度が高い方でも感じて頂ける様に席などを工夫している。季節の花を飾るように心がけている。					○	評価困難 COVID-19感染予防のため、ユニット内への立ち入り制限があり、確認することができなかった。
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	孤独を感じる事が無いように、利用者同士が自由に過ごせるようにしている(席等)。ソファを廊下に置きゆっくり出来るスペースを提供している。						
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	個室である為、個々に応じてゆっくりと過ごして頂けるように配慮している。						
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	家での生活に出来るだけ近いように、配置などを考慮している。また家で使用していたタンスなども使用されている方もおられる。家族の写真やぬいぐるみなども持参されている。	◎		○	テレビやテーブルを持ち込んでいる。壁に家族の写真を飾ったり、ドライフラワーを飾ったりしている。「洗面台の電気が眩しい」と言う利用者には、電気カバーに和紙を貼って光を調整していた。		
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	出来る出来ない事を把握し、出来るだけ見守り出来ない事は支援している。				○	トイレの扉には「といれ」「洗面所」「お手洗い」と大きく書いた紙を低い位置に貼っている。自室が分かりにくい利用者には、入口に本人の顔写真を貼っていた。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	失敗を感じさせないようにさりげない配慮に心がけている。出来ない事もある。					自分の携帯電話で、家族と連絡を取り合っている利用者が数名おり、職員は充電を確認するなどして、いつでも使用できるようにサポートしている。	
		c	利用者の活動意欲を醸成する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	出来るだけ家庭に近いように心がけているが、危険な刃物・花瓶の配置等は管理を行っている。						
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態に発していることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきあき感・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	居室や玄関に鍵をかける事の弊害を理解している。	◎	◎	◎	○	「認知症について」の法人内研修時に、鍵をかけないケアについて学んでいる。日中は、玄関は施錠していない。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	家族の方で施錠を望む方はおられない。入所契約時には施錠について説明している。						
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	無断離所のある利用者においては各事業所内に特徴などを書いた書面を作成しわかる所に貼ってもらっている。						
(4) 健康を維持するための支援											
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	一人一人の病気や症状の把握をカルテにて行い、Drの指示など経過に残し共有し、早期発見・治療ができるように努めている。					/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	日々の状態を把握し、変化がある時は情報を共有できるように記録に残し、NS・Drに報告指示を受けるようにしている。						
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	日々の状態を把握し、変化がある時は情報を共有できるように記録に残し、NS・Drに報告指示を受けるようにしている。						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師を受診できるように支援している。	○	利用者・家族が望む医療機関を受診できるように支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	利用時には本人、家族さんにお伝えし受診を行っている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診前後には必ず報告し、記録に残している。希望に応じて記録の開示を行っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	個人情報には十分に配慮し状況報告や提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	相談員から状態を聴き状態把握に努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	スムーズに行えるように連携を図っている。必要に応じ訪問する事もある。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	状態の変化を看護職に伝え指示受けし、必要時Drに報告している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	24時間相談できるような体制は整えている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	日頃の状態把握をしっかりする事で、治療を要する期間が出来るだけ短くするように努めている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	△	理解には努めている。服薬管理表を作成し飲み忘れや誤薬などが無いように努めている。処方ファイル作成とカルテ内に閉じ理解に努めている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	服薬管理表を作成し飲み忘れや誤薬などが無いように努めている。引継ぎの時に確認、申し送り表にチェックしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	利用者の日頃の状態を把握し、いつもと違う気付きなどDrに報告している。相談の上服薬管理を行っている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	服薬してからの状態も報告し状態観察を行っている。異常時には早期に報告相談し対応するようにしている。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	重度化に置ける指針や看取りに関する指針を契約書に盛り込み説明を行っている。カルテに閉じ、必要に応じ再度確認している。				入居時、「看取りについての事前確認書」で家族に意向を確認している。昨年9～10月に、初めて看取り支援を行った。状態変化時、主治医、家族、管理者、看護師で話し合い方針を共有した。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	医療機関とも連携を図り支援を行っている。	◎	◎		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	現状を把握しどこまでの支援が出来るのか、職員・家族の思いを受け実施する事が出来た。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	事業所の出来ること出来ないことを状態変化に伴い伝え理解を得られるようにした。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	看取り開始から状況を先生伝え指示を受け対応した。家族にも出向いて頂き今後の方針を説明し希望を聞き対応した。今後も経験を活かしていきたい。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	契約時など重度化した場合等の会話をさせて頂いている。出来るだけ本人や家族に寄り添えるように努めていきたいと思っている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	勉強会等を実施している。忘れてしまう事もある。為定期的に取り組んでいる。マニュアル参照している。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染症が出た場合の対応や汚物等の処理も実践的に処理の仕方などを学んでいる。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	行政機関からの事務連絡等最新情報の内容を確認・把握にして予防に努めている。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	地域の感染症発生状況を把握して感染症流行時には、法人より感染予防の掲示物が出て注意して対応している。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	手洗いや消毒に気をつけている。職員が媒介者にならないように注意している。インフルエンザ時期になると勤務開始と退勤時に体温を測るようにしている。玄関に張り紙・マスク着用・ウイルス除菌スプレーを設置して対応している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
II. 家族との支え合い										
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会に来られた際には、状況報告を行っている。交流会・行事・家族会などにも参加いただけるように案内を行っている。				季節の花見物や家族会(そうめん流し・忘年会など)に案内しており、参加がある。(今年は、COVID-19感染予防のため中止) 来訪時や電話で報告をしている。遠方の家族には、月1回程度、担当職員が電話で報告している。医療面については、電話や家族の来訪時に看護師から報告している。法人の便りや事業所の「ふくずみだより」、また、夢プラン実施後に作成する、個別の「夢プラン便り」を送付している。	
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(茶や甘い雰囲気、関係再構築の支援、湯呑の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	気軽にいつでも来て頂ける様に面会時間を設けていない。リビングでも居室でも面会できるようにし、家族さんとの時間を大切に配慮に努めている。					
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	外出や年間行事等にも案内させて頂き、ドライブや夢プラン等参加して頂いた。来所時食事の介助や食器洗いなど協力して下さっている。	○				
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たよりの発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	法人の便りが年に3~4回の発行・配布している。GH独自の便りも作成し配布を行っている。	◎	◎			
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	△	知りたい事不安な事を的確に報告出来るように、家族の話を傾聴し具体的に報告出来るように心がけている。					
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	より良い関係性を気付けるように努めている。日々の中での会話やつづやく言葉や表情など伝え利用者の想いを伝えることもある。					
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	全家族さんに報告出来るように、書面にし配布するようにしている。運営推進会議・家族会・来所時に報告に努めている。	△	○			行事は「ふくずみだより」に載せている。また、運営推進会議時に報告している。昨年、利用料金に変更があった際には、運営推進会議時に報告した。職員の異動・退職はこの一年ではなかった。運営推進会議の議事録は、12月の家族会時に、一年分の議事録を配布している。
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	面会時や家族会など交流が持てるように行事(外出・クリスマス・誕生会)に配慮している。面会に来られた家族さん同士が会話している事もしばしば見られている。今年はコロナの為に難しくなっている。					
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	その都度状況を報告しリスクにおいて理解して頂ける様に働きかけている。月1回状態報告に努め、ケアプラン更新時には説明している。					
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時は連絡・報告を行っている。また体調に特変があった場合等はその都度連絡し、意見や気になる事を聞いている。訪問診療時変わったことがある場合は、NSが連絡しその指示などを伝えている。			○		家族来訪時は、管理者や職員が近況報告を行い、意見はないか聞いている。利用者個々の担当職員は、家族と直接やりとりすることが多く、家族から担当職員あてに電話がかかってくることもあるようだ。
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約時には、契約書にそって説明を行い、納得して利用を行っている。					
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退所においても契約時に説明させて頂き、グループホームでの生活が難しくなってきたり過程の状態も報告・相談を行いスムーズに移れるように支援している。(待養入所事例あり)					
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約前に見学や利用料金の説明をさせて頂き利用開始できるように努めている。変更があった場合には書面の変更を渡している。					
III. 地域との支え合い										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	毎年6月に地域交流会を行い、自由に見学出来る機会を設けているが、今年度はコロナの為中止する事になった。民生委員の方の変更時には見学を実施しているが今年はコロナの為中止・延期になっている。	○			町内会に加入している。昨年は、利用者と一緒に地域の夏祭りや地方祭、防災訓練などに参加した。地域の保育園との交流を継続している。(COVID-19感染予防のため、今年は、地域行事や保育園との交流は中止) 事業所周辺を散歩する際には、地域の人と挨拶を交わし、時には、農作業をしている人から声をかけてもらうことがある。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	周年記念・地域交流会・消防訓練や運営推進会議など案内させて頂いている。散歩時の挨拶、いご祭り・秋祭り・夏祭りは併設事業所と合同にて出店している。ティのボランティアや保育園の訪問時は一緒に交流しているが今年はコロナの為に難しくなっている。		○			
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	少しずつではあるが増えている。人数的にはまだまだ少ないが地域に根ざせるように働きかけていきたい。(以前入所されていた家族)					
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	時々民生委員さんが立ち寄ってくださる。地域の方より七夕の笹を持参して頂く事もあった。引き続き声掛けし広げていきたい。					
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	畑の作業中近隣の方とあいさつや会話が出来ようになってきている。消防訓練や行事に時等あらかじめ伝え理解を得るようにしている。					
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	利用者さんが地域との関わりを繋げていけるように働きかけている。ボランティアなどで歌や踊りなどに来ていただいているが今年はコロナの為に難しくなっている。					
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	地域の行事等に参加出来るように取り組んでいる。(地方祭・夏祭りなど)					
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を深める働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー、コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)	△	地域の保育所や学校、地域ボランティア訪問していただいている。年1回消防署城北に参加依頼している。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人の参加がある。	○	開催時において参加者はまちまちであるが、徐々に参加人数は増えてきている。開催日時の変更も行い、参加増に努めている。新入所された家族さんへは参加をお願いしている。コロナの為書面にて実施する。	○		△	併設小規模多機能事業所と合同で行っている。グループホームで開催する際には、利用者も参加している。地域からは、民生委員などが参加している。家族は、毎回ではないが参加している。入居時には、管理者が運営推進会議について説明して、会議室内は、毎回、全家族に電話で行っている。	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	利用者の状況等報告させて頂いている。外部評価を受けた結果等も報告させて頂いている。			○	今後は、行事を兼ねるなどの工夫をして、会議の参加者を増やしたいと考えている。3・6・7月の会議は、COVID-19感染予防のため、書面会議となっている。	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	毎回意見等をただけるように声掛けを行っている。意見が反映できるように努めていきたい。			◎	x	入居者の状況、活動報告などを行っている。外部評価実施後には、評価結果と目標達成計画について口頭で報告している。
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	平日の昼間の開催が多い為、日時変更を行い、家族さんの参加に努めている。テーマにより職員が参加し報告している。			◎		参加者から意見などはあるが、この一年間で、日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告したような事例はない。
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	会議議事録は作成している。家族会などで運営推進会議の事を説明し内容と日時の書類配布を行った。議事録は玄関に置き、見て頂けるようにしている。					
IV.より良い支援を行うための運営体制										
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念の大切さをミーティング等で話し合っている。日々実践できるように努めていきたい。					
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	家族会や利用開始時などには事業所としての方向性をお伝えしている。	△	△			
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者・基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	△	内部研修等には参加出来ているが、外部研修には全員参加出来ておらず、参加した職員の持ち帰り研修報告を参照している。					
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	法人で各職員が目標を立て取り組んでいる。又内外の研修を行っておりスキルアップに努めている。					
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	年に2回は面談を行っている。その他職員からの相談にも応じてもらっている。					
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	法人内での歓迎会や忘年会等を行い、他の部署など意見交換ができるように働きかけている。					
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	施設長・事務局長の年3回の面接実施。リフレッシュ休暇を進めており、予定表作成、入力し共有している。GH連携会にも参加される事もある。	○	○	○	○	法人主催の歓迎会や忘年会、新年会がある。毎年リフレッシュ休暇連続5日、有給休暇を合わせて長期休暇を取得できるしつみがある。年3回、施設長、事務局長との面談の機会がある。
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	勉強会を実施している。身体拘束・虐待委員会に参加・マニュアル作成しており、いつでも見れる所に置いてある。					
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	事業所でも勉強会を行なっている。身体拘束適正化検討委員会を3ヶ月毎に実施。GH会議内にも話し合う事もある。				法人研修や新人職員の研修時に、身体拘束や虐待などについて学んでいる。昨年7月には、法人全体で、職員対象に「高齢者虐待に関するアンケート」(マニュアルを読んだか、虐待を発見した時、報告できるかなどの項目がある)を実施した。	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	身体拘束廃止・高齢者虐待防止委員会でアンケート調査を行う。アンケートの結果振り返り、虐待、不適切なケアの行為発見や対応方法、手順の確認を職員が考察し確認する事が出来た。				○	職員は、不適切な行為を発見した場合は、「管理者に報告し、その日の勤務職員で話し合う」とこと認識している。
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員のストレス等日頃から気軽に話さず機会を増やしている。有給・リフレッシュ休暇の取得をGH目標にし実施に努めている。					
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	勉強会を実施している。身体拘束・虐待委員会に参加・マニュアル作成しており、いつでも見れる所に置いてある。					
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	事業所でも勉強会を行なっている。身体拘束適正化検討委員会を3ヶ月毎に実施。GH会議内にも話し合う事もある。					
		c	家族等から拘束や錠剤の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	身体拘束の勉強会や委員会に参加している。委員会に参加し他施設の情報を聞き共有している。					
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	勉強会などは行っているが全員は理解できていないこともある。更に理解を深められるように研修等参加していきたい。					
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	事例がない為、相談までいたっていないが、今後生かせるように勉強会などを行ってきたい。					
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	事例がない為、相談までいたっていないが、今後検討しないといけない利用者さんがおられる為市役所の担当職員と連携を図ってきたい。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成している。勉強会や救急法の訓練を行ない努めていきたい。				実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	2年に1回消防局からきて頂き講習を行っている。定期的に事業所内でも訓練や勉強会を行っている。					
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故報告・ヒヤリハットをあげ検討会を行っている。利用者さんの安全につながるように活かしていける検討会になれよう努めている。					
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	事故報告・ヒヤリハットをあげ検討会を行っている。利用者の安全につながるよう活かしていける検討会を目指している。					
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルは作成できている。苦情に対して真摯に向き合い速やかに解決出来るよう努めている。				実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	行政機関に相談したケースは今の所ないが、必要時は行っていきたい。					
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	相談や苦情があった場合は、すぐに対応できるように説明と改善方法を話し合っている。					
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	満足度調査などを実施し意見が反映できるようにしている。				運営推進会議に参加する利用者は機会がある。他の利用者は、日々の中で個別に訊いている。 ◎ 年2回、「満足度調査」を行い、職員の言葉遣いや、外出、レクリエーション、食事、入浴、などについて聞いている。利用者は、食事に関する意見が多いようだ。 管理者もシフトに入り、日々の中で職員の意見や提案を聞いている。また、GH会議時に聞いている。夫婦で入居する利用者について、変化する状態に合わせて、ゆくり過ぎせる空間づくりを検討した事例がある。	
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	意見箱やまた直接相談等に応じれるようにしている。家族会やケアプラン説明時に声掛けを行い機会をつくるように心がけている。	○		○		運営推進会議、来訪時などに意見を聞いている。
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	事業所だけでなく、契約書などにも公的な相談窓口などの連絡先を掲示している。					
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	面談があり機会を設けられている。					
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	日頃より聴き、ミーティング等で行っている。理念に沿って支援出来るように話し合っている。					
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	理解を得られるように説明し行っているが、評価だけに終わることなくつなげていきたい。				外部評価実施後の運営推進会議には、評価結果と目標達成計画について口頭で報告している。 家族には、評価結果を郵送し、家族会時に目標達成計画について報告している。 モニターをしてもらう取組みは行っていない。	
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	評価を通して、問題点が明らかな部分も見えてきている為、課題改善に取り組めるように努めている。職員1人1人が年間の目標を立て取り組んでいる。					
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	運営推進会議などで結果を話し合っている。事業所全体取り組んでいる。					
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進会議などで結果を話し合っている。それで終わることないように、途中の経過報告なども行っていきたい。家族会でも報告は実施しているがモニターまでには至っていない。	△	○	△		
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	取り組みや成果等報告できていないこともあるため、途中で終わることがない様に確認できるようにしていきたい。					
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルを作成し徹底を図っている。全員の職員が徹底出来るよう努めている。GHIに必要な部分のみのマニュアル作成。				地区の防災訓練(昨年11月)には、利用者と一緒に参加した。 事業所で避難訓練を行う際には、近隣住民に参加を呼びかけているが、参加には至っていない。 今年、7月の大雨の際には、土砂災害レベル4の避難勧告が出たため、法人内介護施設へ避難した。運営推進会議時には、その際の様子を報告した。 会議時、防災について話題に挙げて話すことはあるが、今後は、協力・支援体制の確保に向けた話し合いも行ってほしい。	
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	昼間・夜間帯など時間を変えて動きや職員の配置状況など把握し訓練を行っている。					
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消火設備については出来ている(R2年7月実施)。備品・食料など保管がふくずみにある。					
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	消防訓練等には消防署の方の参加を頂き連携を図っているが、他事業所との連携は図れていない。	△	○	△		
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	地域の防災訓練などには年に1回は参加している。H30年夏祭り時に参加する。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	運営推進会議にて状態報告を行いその時に質問などある時には説明している。地域の会議で実践している事を話す予定になっていたが、コロナの為実施未定になった。				法人が相談を受けており、事業所として相談支援する取り組みは行っていない。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	地域の方が相談に来られデイサービス利用になった事例がある。		△	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	地域交流ルームを開放し、地域の方に利用して頂けるようにしている				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	ボランティアの受け入れは随時行っている				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	包括と協力し、地域交流会を行う事もある。他の事業所や関係機関とも連携を強化できるように働きかけを行っていく。地域の夏祭りに包括と出店を実施しているが今年はコロナにて中止になった。			○	